

技能プログラム

私はチャイ・ヘン、18才です。CCHには2007年12月に来ました。2014年8月よりドンボスコの職業訓練校に通い、ホテルに関する仕事を学び、2年間の修了証書を得ました。2016年8月にドンボスコを卒業して、今はプレアシハヌーク州のコウサンサというホテルでディ・ラタナとネガ・ソサリーと共にホテルの従業員として働いています。私は月に400ドルを稼いでいます。CCHでの経験が私の人生を変えてくれました。JHPの皆さん、とりわけ親愛すべきJHP小山内美江子代表とCCHサポーターの皆さまに心から感謝しております。2017年は11人がドンボスコの職業訓練校に通っています。



CCHでの教育

海外での教育については、フット・ラブーとエン・ピアリットがアメリカの大学で修士を終えて、今はカンボジアに戻っています。2人はカンボジア国内のアメリカの会社で働いています。その他、ケオ・チャンテスダ、ケオ・マニン、ケオ・シナ、ウン・ナロア、シン・サヨンは、今もアメリカで学んでいます。



プノンペンの大学

クン・ソンボーは、2002年11月にCCHに入った第一期生です。彼女は今、パナサストラ大学で金融を学ぶ1年生です。他に別の大学で学ぶ4人の大学生がいます。サンボーは、CCHが運営している小学校を手伝っています。そこには、1~6年生まで125人の生徒がいて、裁縫、コンピューター、英語、アートクラブ、生活や社会に関する技能を学んでいます。



メイクアップと裁縫の技能

私の名前はモム・スレイ・ラス、14歳で、7年生(中学1年)で学んでいます。私は、オーベイコム中学校に通っています。学校では、クメール語、英語、物理、数学、コンピューター、体育、芸術などを勉強しています。私には4人の姉妹がいます。CCHでは、全ての科目とメイクアップ、裁縫、英語、コンピューターなどの技能を学ぶことができます。



ゴミ山のサポート

私の名前はリム・カオエック、12歳です。兄弟は6人で、4人が女、2人が男です。私は両親が毎日ゴミ拾いをするのを手伝っていました。いつか学校に通えることを望んでいました。しかしながら、私たち家族は時に食事さえ賄うことができなかったのが、学校に行くことは不可能でした。私は、世界のことに目を閉ざしたままでいたくなかったのが、読み書きの能力はいくらだけでも持てたらと思っていました。ゴミ拾い以外にいくつかの技術を得られたらいいなと思いました。今は、私たちのより良い将来のために、ノンフォーマル教育の機会を提供してくださるCCHに感謝しています。



CCHの小学校

CCHには、カンボジアの教育・青年・スポーツ省の認可を受けた6学年(1~6年生まで)の小学校があります。2016-2017年度は、CCH在籍の生徒を含めて125人が通っています。学校は、午前4時間、午後4時間の1日8時間開いています。生徒は、クメール語(国語)、算数、社会、理科を学んでいます。その他にも、コンピューター、裁縫、英語、生活技術などの生活技能も学んでいます。特に金曜日には、2~6年生は、アートクラブに出席しており、そこで生徒はグループ作業の方法、自身を賢く、積極的、創造的にする方法、経験から大きな自信を得られる方法を学び、中学レベルの学校に通う準備をしています。



ロードショー

私はネアング・ジョン、14歳です。兄弟は男3人と女1人の4人です。父親の名前はノブ・ネアング、母親はオク・ボスで、両親はゴミ拾いをしています。私は、以前は学校に通っていましたが、家庭の経済的な理由で学校を続けていません。また、私は絵を描くのが一番好きです。ロードショープログラムのような活動があることは本当に嬉しいです。このプログラムは、私の内面にあるものを見せたり、行動で示したりする機会をくれるのです。私のように、教育に手が届かない子どもが、想像すらできなかった活動に接したり楽しんだりできるように、このロードショーが続いていくことを望んでいます。同時に、ロードショープログラムに関わる皆さまにお礼を申し上げます。



* スレイ・ナツとCCHの若いメンバーは、日曜日にゴミ山で子どもたちに読み書き、計算、読み聞かせ、絵画、折り紙を教えています。

アートクラブ

私はセン・ソティアリーです。4人姉妹です。2015年からCCHで生活しています。CCHにはロードショー、職業訓練プログラム、学問的なプログラムやその他の活動のように、全てのCCHメンバーのために数多くのプログラムが用意されています。それらの中で、私が一番興味があるのがアートクラブで、CCHの小学校の2年生以上のための授業です。そこでは、リサイクルの缶やビニール袋を集めたり、組み合わせたり、使うことによって、多様な芸術を学ぶことができます。私はアートクラブに参加していることが本当に楽しくてなりません。支援者の皆さまがこのプロジェクトをサポートし続けてくださることを望んでいます。また、皆さまのご助力に感謝しております。



コンピューターの技術

私はアツ・リティーです。現在、CCHの小学生レベルの子どもたちにコンピューターを教えるトレーナーをしています。私は2009年にCCHに来ました。現在、高校の10年生(高校1年)で学んでいます。



支援者の皆様へのメッセージ CCH所長 メチ・ソカ

教育は世界の全ての人間にとって、人生の最初から最後までとても重要なものです。CCHは、知識、技術、モラル教育に力をいれています。ここでは、全ての子どもたちに学問的、社会的な力や、生活技能を提供しています。実際に、2002年11月30日から現在までに、CCHは以下の通りの支援を行ってきました。

-101 人の子どもたちが、大学や高校レベルの教育、技能訓練を終えてCCHを巣立っていき、カンボジアの大きな社会でより良い人生を歩んでいます。

-50 人がCCHを出て生活をしています。彼らはより高い教育と技能を得るために今なお学校に通っています。

-6 人がアメリカの大学で学士課程を修了しました。

-2 人がメイクアップの訓練を受け、1人が日本の大学で交換留学のプログラムを経験しました。

-5 人がプノンペンとプレアシハヌーク州にあるカンボジア国内の大学に通っています。

-29 人の子どもたちが、現在中学校で学んでいます。

-46 人の子どもたちが、小学校で学んでいます。



これらの結果に基づき、CCH理事会の代表である私メチ・ソカは、JHPの小山内美江子代表、日本の全てのサポーターの皆さまへの感謝を忘れることはなく、いつも心に留めております。皆さまは、恵まれない子どもたちがより良い教育や仕事を得て、この国で人生を好転していけるように、支援を続けてくださっています。

小山内美江子さんとJHPの全てのサポーターの皆さまの人生のご多幸とご繁栄をお祈りしております。その親切で寛大なお気持ちが、どうか皆さまに幸せをもたらしますように。

全てのサポーターの皆さまへ

CCHのスタッフと子どもたち全員より、皆さまへ感謝をお伝えいたします。皆さまの毎年のご親切な援助により、知識、技能、モラルを得るためのより良い教育を受けることができ、貧しい子どもたちの人生に変化をもたらしています。子どもたちが18歳になった時、社会的にも法的にも、自身の行動に責任が持てる良き大人になるのです。

